

## 第7分科会 読書指導の実践

司会者 市川 真知子（千曲市立更埴西中学校）

### 1 発表の概要

#### （1）箕輪町立箕輪中部小学校 発表者 原 佐織

- ①図書館の時間
- ②朝15分間の読書：一人で読む、学級で群読をするなど活動に幅を持たせた取り組み
- ③本に親しむ会：PTA同好会の1つ。本の紹介のお便りの発行、読み聞かせ、ブックトークなどの活動
- ④図書委員会の活動
- ⑤読み聞かせノート、読書ノート：町内全ての小学生が利用  
〈事例1 読み聞かせにより、落ち着いて学習に取り組めるようになった小一生〉  
〈事例2 学校図書館と公共図書館、両者協力のもと、共通した本を準備〉
- ⑥読書旬間：読書ビンゴ（様々な本にふれる機会になった。科学絵本や科学雑誌の貸し出しが増えた。）

#### （2）茅野市立長峰中学校 発表者 山寄 沙弥子

- ①図書館の紹介：新設の図書室で、生徒が使いやすいように公共図書館と協力して整備
- ②朝の10分間読書：図書館の本を読むことを徹底  
図書館での朝読書を学級ごとに月1回実施
- ③BOOK BASKETによる教室への図書貸し出し
- ④「本と友だち」 茅野市内小中学校での取組
- ⑤地域ボランティアによる読み聞かせ
- ⑥おいしいお話の日：栄養士の先生が本を紹介するお便りを発行してくれる。本から出てきたメニューが給食で提供される。

### 2 協議内容

#### （1）箕輪中部小学校の実践について

- ・群読に取り組むのはおもしろい。各学年で読む詩を決めて取り組んでいる。
- ・PTA活動で子どものために学校に頼らず活動していて素晴らしい。
- ・読書郵便では他校の同じ学年の子と交流している。

#### （2）長峰中学校の実践について

- ・中学校では学級に本を貸し出すと、紛失、破損などの問題が発生する場合がある。担任の先生方が協力してくれていてよい。
- ・朝読書が日課表に入っており、中学生に図書館の本を読むことを徹底できていてよい。ライトノベルなど実態に応じて設置するかどうか決定できるとよい。

## 第8分科会 利用指導の実践

助言者 春日 直史 (北信教育事務所)

司会者 清水 幸子 (須坂市立栗ガ丘小学校)

発表者 花岡 直美 (佐久市立野沢中学校) 清水 幸子 (須坂市立栗ガ丘小学校)

### 1 発表の概要

〈野沢中学校〉～野沢中学校の生徒の実態と利用指導について～

本校の生徒はマンガが原作の小説や携帯小説を朝読書で読む子が多かった。図書館に行っている生徒は32名中7名。読書は嫌いではないが図書館は身近ではない。『調べ学習の基礎の基礎 だれにもできる赤木かん子の魔法の図書館学』をもとに調べ学習を行ったが、必要感が欠けていた。『はじめてのアニメーション』『子どもが必ず本好きになる16の方法』の中から『はらぺこあおむし』を始めた。読み終わった後、中学生は喜んで取り組んだ。二回目は『ハリー・ポッターと賢者の石』。これは読んでいたりDVDで見たりしていたため読まずに実践。個人でなくグループで取り組んだことも良く生徒同士の輪も広がった。「面白い」との感想が多かったが「読んでみたい」と言う子は一人でDVDを見た子が多かった。三回目は絵本『注文の多い料理店』。フラッシュカードに12枚の扉を作るなどして読書旬間にもお勧め。読みながら答えあわせ。俳優の写真を提示して共通する作家は誰かと問題を出して小説を紹介することも良かった。『平家物語』の授業をきっかけに「『源氏物語』読んでみようかな」という子が出てきた。

〈栗ガ丘小学校〉～栗ガ丘小学校の図書館について～

本棚の工夫として小さな本は牛乳パックを横にして模造紙を巻いたものを作り取り出しやすくした。図書委員のお勧め本のコーナー、教科書に載っている本のコーナーは子ども達に人気がある。図書委員の中に本を探すのに困っている人に積極的に声をかけ探すお手伝いをする「本の案内人」が人気。カウンター体験として希望して抽選に当たった低学年の子ども達がバーコードを読み取る体験ができるようにしている。二冊目の代本板は下敷きを使用するように計画している。また高山小学校では「食欲の秋」と「読書の秋」として本に出てくる食べ物を給食に出して放送で紹介することも人気がある。卒業までに読む百冊の本のリストを作ることも良い。

### 2 討議の概要

図書館の分類が中学生にも理解できていない。「子ども読書の日」に合わせて請求番号問題が三問あっていたら三冊貸し出し券や『こびとづかん』の葉などをプレゼントすると喜ぶ。体育館に走っていく男の子を図書館に、というのが課題。低学年は「登校すると図書館」という習慣があるが高学年になると難しい。「本の迷子」として登場人物をあげてどの本かのクイズを出す。図書館オリンピックや猫バスの中で読み聞かせなど効果的。分類ビンゴや詩のビンゴ、本のクイズなど喜んでいる。学級通信で子どもが紹介した本を写真で紹介すると親子で話題になって良い。

### 3 まとめ (助言者の指導を含む)

『長野県における図書館の現状と今後の方向』についての指針の中で6章学校図書館の三つの働きの中で「情報学習センター」「読書センター」「授業作りの場」が機能するために司書の先生は考えていただきたい。今日は主に読書センターとしての働きの充実のために今日のレポートはとても良かった。先生が授業作りに使える図書館にと環境を整えておくことが大切。国語科の授業と図書館をつないでいくことが大切。国語の学習指導要領の中に「読むこと」の領域の中に「読書」という指導項目が入ってきた。小学生は「目的に応じた読書」である。例えば小2の「きみたちは「図書館たんていだん」という単元がある。分類に目が向いて今後の調べ学習につながる。物語教材の後ろに必ず本の紹介が載るようになった。子ども達に目的が生まれる。「走れメロス」の単元に入る時に太宰治の作品を読んで共通点を探し、とすると面白い。目的を授業の中で持たせることで図書館とつながることができる。中学校は「情報活用」情報をいかに活用するかシフトしていく。今の教科書と図書館の本がどう関連するか意図的に考えていくことで子ども達が図書館に足を向くきっかけが生まれると思う。

## 第9分科会

## 学校図書館の運営

助言者：三澤 ゆり（長野県総合教育センター教職教育部専門主事）

司会者：鈴鹿 なつき（中野市立中野平中学校）

発表者：神戸 真由美（塩尻市立宗賀小学校）

吉田恵美 黒岩 理恵子（松川村立松川中学校）

### 1. 発表の概要

<塩尻市立宗賀小学校「年間指導計画作成とその扱いについて」>

- ・各教科の単元との結びつきを大切にしながら年間指導計画を作成し、授業で活用される図書館に向けて取り組んでいる。
- ・職員会で全職員に活用の仕方や扱いについて紹介・提案し、共通理解をした。
- ・指導計画で、係として協力できることがこれだけあると示したことで、担任が係に協力依頼しやすくなったほか、色々な図書館の使い方に興味を持ってくれた。ワークシートや展開例があるなら参考にして自分で授業をしてみたいという担任も出てきている。
- ・読書記録の工夫や、調べ方を学んだり教科学習に生かしたりできるワークシートの紹介。

<松川村立松川中学校「“みんな”で育てる子どもと図書館 学校・公共図書館・美術館、連携のあゆみ」>

- ・人に感謝されながら本や図書館と関わることで、人間形成や将来の読書活動にもつながっていく。学校だけではできないことが地域にある。
- ・公立図書館開館に当たり、生徒たちも一緒に図書館をプロデュースした。調査活動、情報収集、企画、プレゼンテーションなどを行い、多くの人が利用したくなる図書館作りに関わることができ、今につながっている。
- ・おすすめ本紹介カードの交換や夏の図書委員読み聞かせ指導協力等、公共図書館とは日常的な連携がある。
- ・ちひろ美術館には、夏休みの「ちひろボランティア」や「図書委員の読み聞かせ活動」など、学校だけではできない貴重な経験の場がある。たくさん「ありがとう」をお客さんからいただける経験、本物の接客に打ち込み、一生残る貴重な経験をすることができる。
- ・月1度の「定例司書会議」でアイデアを出し合ったり、情報交換をしたりしている。

### 2. 討議の概要（普段の図書館利用や読書指導等の様子や困っている点に対しての情報交換）

- ・突然の調べ学習や、図書館使用のバッティングで困っている。  
→予約システム等で環境を整えることができる。
- ・パソコンが導入されていることで、図書館利用が減ってきているように思う。
- ・図書館から発信していくことの大切さ…お話の読み聞かせや読書以外にも、図書館でできることはたくさんある。活用の仕方でも理解してもらえるような取組みをしていきたい。
- ・司書と司書教諭の連携のあり方を探っていきたい。
- ・ブックトークは、その後読み物につながっていくものでありたい。

### 3. まとめ（助言者の指導を含む）

- ・計画立ててつける力をきちんとつけていくことが望ましい。様々な教科にわたって図書館にできることがある。
- ・司書教諭からの提案を受け、担任の先生が良さを感じ、図書館は欠かせないものだとして理解してもらえるといい。学校が1つになって動いていけることが望ましい。
- ・学び方を学ぶ探究的な学習、生き方を学ぶキャリア教育など、様々な学習の柱として図書館がある。大いに活かしていきたい。

分科会番号⑩

分科会テーマ ①命の重さを考える朗読会  
②国語表現で図書館を活用して

司会者 木内千明（野沢南高等学校）

記録者 大井智代子（野沢南高等学校）

発表者 ①石坂茂（長野吉田高等学校）  
②間宮由美子（下諏訪向陽高等学校）

#### 1 発表の概要

- ① 昨年・一昨年の平和人権教育として実施した朗読会から。  
ラジオ放送を聴いたのが、きっかけで、「たったひとつのいのちだから」という本を題材とした。命について、第三者の文章ではあるが、自分に置き換えて、心にずっと入ってくる。
- ② 国語表現の中での実践。英語のディベートの日本語版。  
日本図書館協会発行の「問いをつくるスパイラル」のワークシートを使い、意見文を作成し、グループ分けをし、意見を戦わせる。

#### 2 討議の概要

発表で、時間になってしまい討議ができませんでした。

#### 3 まとめ（助言者の指導を含む）

助言者はいませんでした。それぞれの発表で、できるところを取り入れてみましょう。で、終了しました。

## 第11分科会 利用しやすい大学図書館づくりのために

司会者 林 康代 長野市 信州大学教育学部図書館

発表者 田巻 健史 松本市 松本大学図書館

### 1. 発表の概要

配布資料に基づき説明

- 発表者の自己紹介
- 松本大学及び松本大学図書館の概要
- 利用状況 様々な活動により、平成20年度から貸出数が増加。
- 図書館の利用促進のために実施した方策

平成19年度

平日閉館時間を18:00に延長。

館内の整備。閲覧机に花を飾る。図書館ボランティアを募って本の紹介。等

平成20年度

平日閉館時間を19:00に延長。

2F グループ学習室を学生に開放。新着図書コーナーの設置。POPで紹介。

2F にブラウジングコーナーを設置し、お昼休み(11:30~13:30)に飲食可能とする。

平成21年度

ブラウジングコーナーの改修、返却ポストを2所設置。文庫本や絵本のコーナーの設置。

「読書スタンプラリー」を実施。先生方の推薦図書を読み所定の用紙に感想などを書き、提出するとスタンプが1個貰え、5個たまると図書カード(500円分)を進呈するというもの。

学部及びゼミを対象にした図書館ツアーの実施。

平成22年度

平日閉館時間を20:30に、土曜日閉館時間を17:00にそれぞれ延長。

新刊書コーナー、おすすめ本コーナー、書架案内等の充実。パスファインダーの作成。

平成23年度

就職支援や資格のコーナーの設置。HPのリニューアル。

法人内の生徒や教職員を対象に貸し出し可能にする。

平成24年度

学生プロジェクト「LibRARy」との共同で、図書館と地域の連携を模索。学園祭でPOPづくり講座を実施。

読書週間中、パブリックルームにおける図書館の出前(貸出業務)を実施予定。

- 今後の課題

図書館の誘導方法。効果的な広報の実施。利用案内の充実。本を探しやすくする工夫。ニーズに対応した資料収集。図書館の中長期計画の必要性。

### 2. 討議の概要

- 学生ボランティアとの連携について。別府大学図書館はれっきとした図書館ボランティアが存在し、学生が返却業務を手伝っている。信州大学工学部図書館では学生ボランティアが企画立案。今年度、図書館で学生ボランティアを募集。
- 図書館スタンプラリーについて。信州大学工学部図書館より事例紹介。
- 図書館の中長期計画について。一部図書館が大学全体の計画の中に図書館の中長期計画を策定しているが、それ以外の大学図書館は明文化された計画はなし。
- 松本大学図書館は松本大学の精神である地域貢献という立場から、市民に開放したり、市立図書館と連携し市立図書館の分館的役割を担ったりすることが出来るのではないかと。

### 3. まとめ

図書館の中長期計画作成をし、日々の活動により利用しやすい大学図書館を構築していく。

助言者 小林いせ子（長野県 PTA 親子読書推進の会）  
司会者 今井正子（北佐久 PTA 親子読書推進の会）  
発表者 ちゅうりっぷの会（北佐久 PTA 親子読書推進の会）  
ふれあい読書の会（北佐久 PTA 親子読書推進の会）

### 1. 発表の概要

#### < 実践発表 >

#### 参加者の感想（抜粋）

虫の声

棒人形 ピーターとモーリー

手作りの人形がかわいい  
アイデアがすばらしい 演技がよかった

人形劇 赤ずきん

大がかりな舞台で準備たいへんだったでしょう  
子どもにかえたような気分になった  
手作りで温かい感じがした

はらぺこ あおむし

立体的に見ることができてびっくりした  
蝶になるところがきれいだった

リズム人形劇

あおむしのジェンカ

オリジナルな感じでこういうのも人形劇なんですね

朗読劇

おかあさんの木

ことばの大切さを感じた  
午前中の講演内容の実践のようだった  
どっしりとした安定感があり耳に心地よかった  
情景を思いうかべながら聴いた

### 2. 討議の概要

実践発表の後 参加者全員の方から感想を発表していただきました

### 3. まとめ

子どもの成長の段階に合わせて読み聞かせは必要です

子どもたちの顔がうかんでくるような活動をしてほしいと思います

たくさんの作品を実践するなかでその中に独自のオリジナルなものを取り入れたりして  
活動の巾をさらに広げていってください

今後のボランティア活動の中で子どもたちが読書の楽しさを感じ読書好きになってくれる  
ための参考にしてください。

## 第13分科会 紙芝居のはじまり はじまり

助言者 佐藤 月子 (北信濃かみしばい学校連絡会)  
司会者 小島佐和子 (北信濃かみしばい学校連絡会)  
発表者 藤本 里佳 (でこぼこ座) 藤本 智大 (でこぼこ座)  
小林 祥子 (飯山市立飯山小学校) 須田 礼子 (北信濃かみしばい学校連絡会)

### 1 発表の概要

- ① 実演『さらやしきのおきく』 (藤本 智大)  
落語が好きな男子高校生が演じる当実演は、テンポがよく、まるで高座を聞いているような心地よさと楽しさが感じられた。語りが新鮮である。
- ② 実践発表～低学年の子どもたちと紙芝居 (小林 祥子)  
本校は週2日読書の時間を設定している。低学年では、その内1回は絵本の読み聞かせや紙芝居を行っている。特に2年生は紙芝居に大変関心を持っており、自分たちが読み手となり、授業参観日に発表することを目標に練習に取り組んだ。中には一人で苦勞している様子の子どももいたので、グループで行う大型紙芝居の発表にも挑戦し、他学級、他学年向けの発表会を実施した。また、でこぼこ座を招いて、紙芝居の実演及び基本について学ぶ機会も設けた。
- ③ 実演『督女さんの見た幽霊』 (須田 礼子)  
北信濃かみしばい学校の「手作り紙芝居入門コース」を受講し、自作の紙芝居を実演。原作の読み込み→場面割り→脚本作り→下絵→本描き(絵と脚本の完成)の流れで作成した。同じ原作でも作成者により脚本、場面割、絵作りが違う作品になっていることが面白い。紙芝居の作り方の実習をとおして、一層紙芝居の魅力を感じている。

### 2 討議の内容(助言者の指導含む)

- ① Q: 高学年向けの作品を紹介してほしい。  
A: 紙芝居リスト(当日配布資料)に基づき、それぞれの特長及び高学年向け等についてアドバイスした。現在購入不可(図書館は所有)の作品も多い。  
最近の紙芝居出版数は、年間70~80作品と少ないが、高齢者向け、赤ちゃん向け(育児援助)が増加傾向にある。  
平和教育、食育などの授業に活用できるものもあり、またブックトークにも利用できる。
- ② 拍子木の扱い方、主婦の拍子木など工夫の仕方を説明  
Q: おはなし会でのプログラムの場面により使用の有無について悩む。  
A: 必要不可欠といったものではないので、場面を考えながら使い方をグループ内で検討してほしい。  
継承すべきすばらしい日本文化の一つであるので、子どもたちへ伝えてほしい。
- ③ 幕紙について各種工夫したものを案内  
Q: のり張りするとたわみが生じるが、どうしたら良いか。  
A: 障子貼り用と化学のりの混合が良いとのことだが、押し(重石)が大事である。
- ④ 紙芝居の舞台について説明  
照明(台所灯など利用)の工夫により対象観客数を倍増することができる。
- ⑤ 参加者が紙芝居の実物を各人鑑賞する。
- ⑥ 参加型紙芝居の実演『まんまるまんまたんたかたん』 (助言者)
- ⑦ 最近出版された高齢者向紙芝居の実演『金色夜叉』 (助言者)

### 3 まとめ

本日の実演、実践発表及び助言者のアドバイス等を参考にして、今後の活動に活かしてほしい。